

## 所管事項調査に関する資料

目次	ページ
1 令和5年度主要事業の執行予定について ……………	2～11
2 長崎市立地適正化計画の改訂について ……………	12～23
3 【仮称】松が枝地区整備構想（案）について ……………	24～28

まちづくり部  
令和5年9月

# 1 令和5年度主要事業の執行予定について

■以下の表は現時点における主要事業(国庫補助事業)の執行予定です。今後の執行予定額については、追加の補助に伴い変更となることもあります。

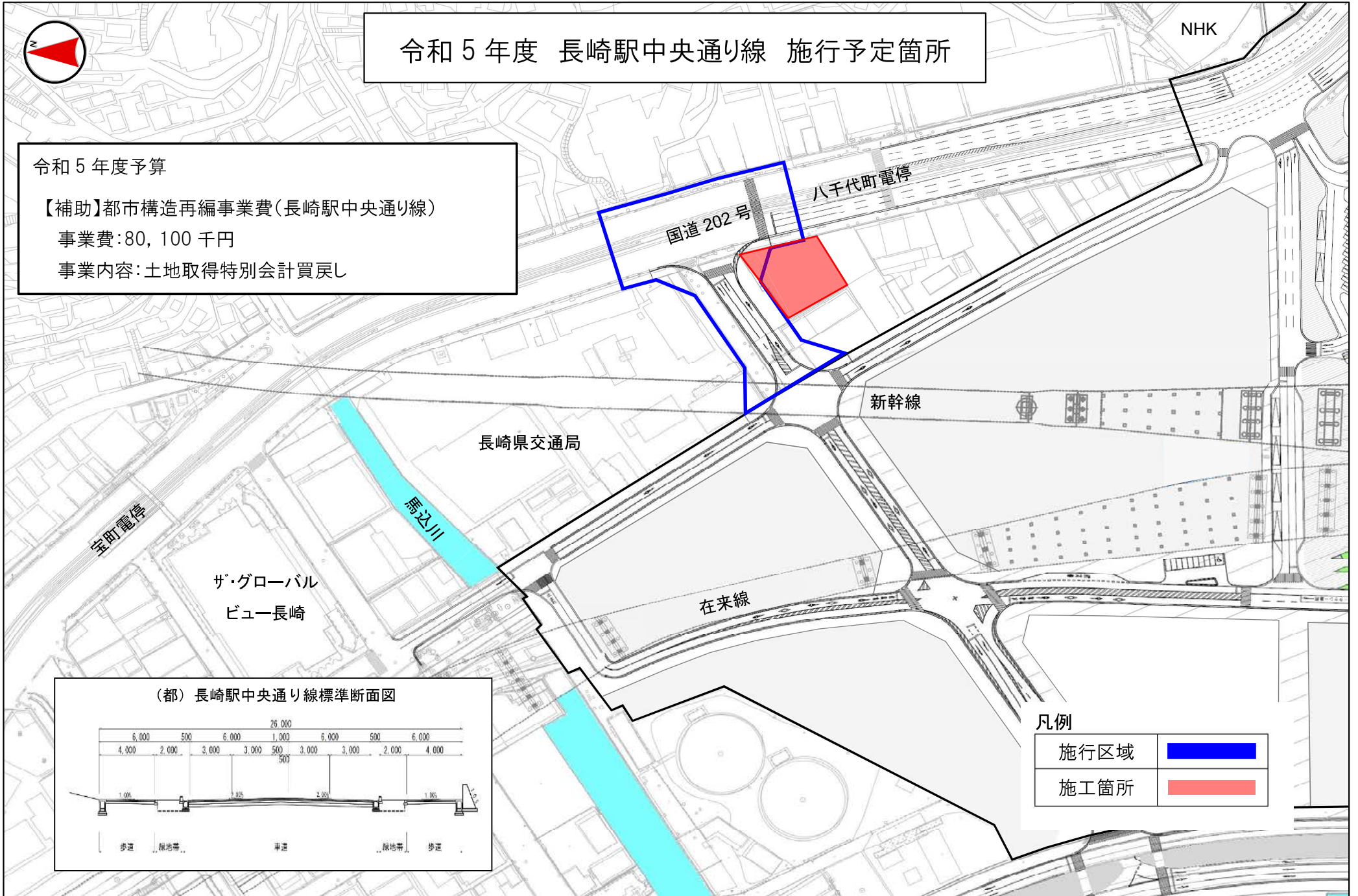
令和5年8月時点(単位:千円)

区分	通番	事業実施箇所等	予算額(A)	執行予定額(B)	差引額(B)-(A)	予算の内容 → 執行予定内容	全体計画及び進捗率					
							事業期間	事業計画	総事業費	進捗率		
										R4(R5.3月末)	R5見込み(R6.3月末)	R5見込み内示減後(R6.3月末)
長崎駅周辺	1	長崎駅中央通り線	80,100	80,100	0	土地取得特別会計買戻し → 変更なし	H26年度～R5年度	延長 L=60m 幅員 W=26m	940,000	95%	100%	-
	2	長崎駅東通り線	92,000	92,000	0	仮設通路設置工事 一式 → 変更なし	R元年度～R7年度	延長 L=60m 幅員 W=14m	470,000	10%	29%	-
	3	長崎駅周辺地区 土地区画整理事業 (社交金分)	411,000	411,000	0	工事(道路、広場、宅地造成) 一式 → 変更なし 委託(広場設計ほか) 一式 → 変更なし 移設補償等 1件 → 変更なし	H21年度～R10年度	施行区域 A=19.1ha	17,300,000	72%	87%	-
	長崎駅周辺地区 土地区画整理事業 (都市構造分)	48,600	48,600	0	サイン設置工事 一式 → 変更なし							
再開発	4	幸町地区 優良建築物等整備事業	3,312,700	3,312,700	0	施設整備の工事監理 一式 → 変更なし 新築工事 1棟(商業棟、オフィス棟) → 変更なし	R4年度～R6年度	施行区域 A=8.2ha	88,000,000	16%	81%	-
東長崎	5	東長崎縦貫線 (2工区)	238,100	238,100	0	道路改良工事 一式 → 変更なし 橋梁下部工事 一式 → 変更なし 上水道管等移設 一式 → 変更なし	H28年度～R7年度	延長 L=700m 幅員 W=16.5m	1,350,000	70%	95%	-
	6	東長崎縦貫線 (3～4工区)	30,200	30,200	0	測量設計委託 一式 → 変更なし	R5年度～R7年度	延長 L=1,140m 幅員 W=16.5m	1,850,000	-	2%	-
	7	つつじが丘西線	129,700	129,700	0	用地取得・建物補償 一式 → 変更なし 測量設計委託 一式 → 変更なし 水路改修 一式 → 変更なし	R3年度～R7年度	延長 L=620m 幅員 W=10m	1,850,000	3%	11%	-
	8	古賀駅前線	15,200	15,200	0	測量設計委託 一式 → 変更なし	R5年度～R7年度	延長 L=460m 幅員 W=12m	1,240,000	-	2%	-
その他	9	夜間景観整備事業	53,500	53,500	0	東山手・南山手エリア 街路灯及び手摺照明 整備工事 4路線 → 変更なし	H29年度～R5年度	平和公園エリア、東山手・南山手エリア 館内・新地エリア、西坂・諏訪の森エリア 中島川・寺町エリア、丸山エリア 斜面市街地(演出照明)	796,500	93%	100%	-



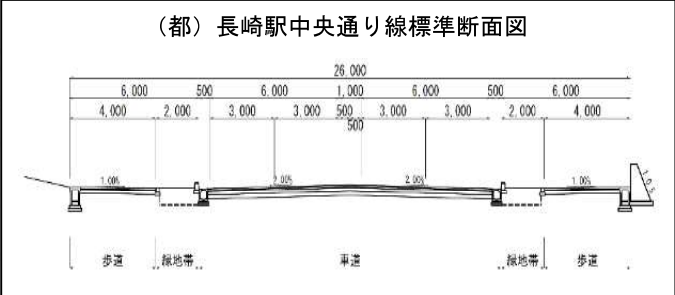
令和5年度 長崎駅中央通り線 施行予定箇所

令和5年度予算  
 【補助】都市構造再編事業費(長崎駅中央通り線)  
 事業費:80,100千円  
 事業内容:土地取得特別会計買戻し

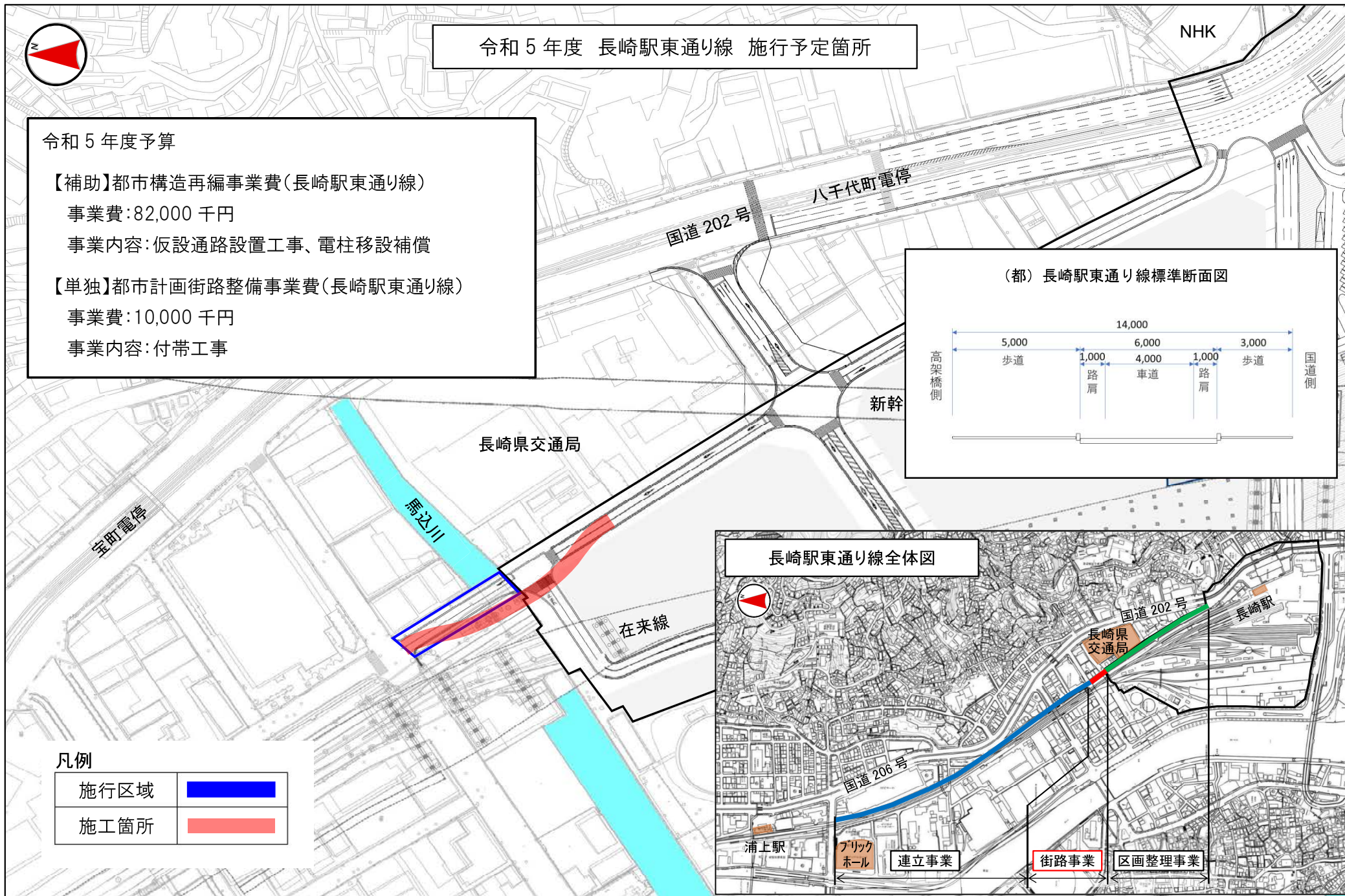


凡例

施行区域	<span style="display:inline-block; width:20px; height:10px; background-color:blue;"></span>
施工箇所	<span style="display:inline-block; width:20px; height:10px; background-color:red;"></span>









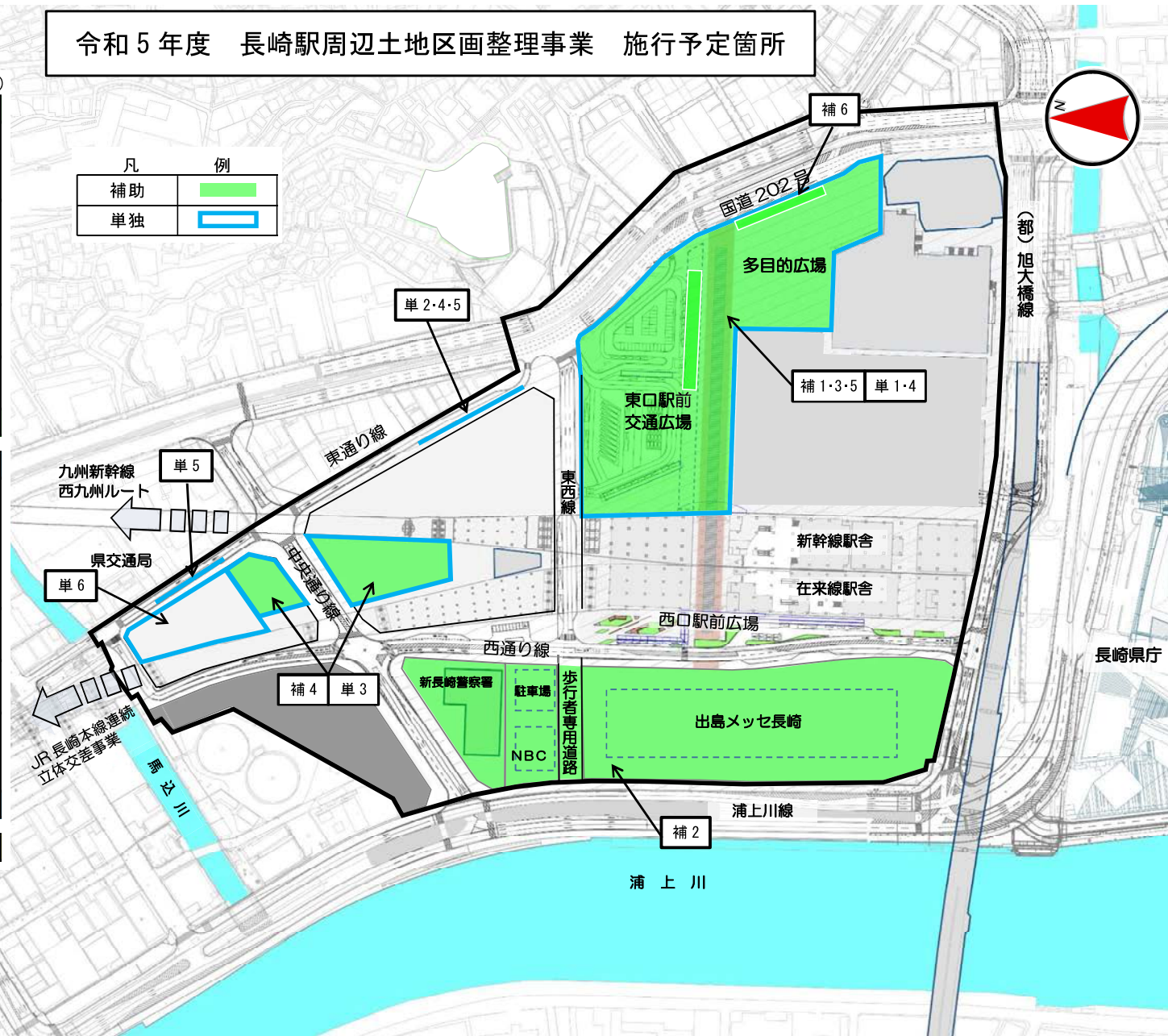
# 令和5年度 長崎駅周辺土地区画整理事業 施行予定箇所

(単位:千円)

項目	工事名・業務名	事業費
委託料	補 1 駅前広場設計委託	30,000
	補 2 境界確定測量	20,000
	小計	50,000
工事 請負費	補 3 駅前広場整備工事	240,000
	補 4 宅地造成工事	85,000
	補 5 サイン等設置工事	18,600
	小計	343,600
補償金	補 6 移転補償	50,000
	小計	50,000
その他	事務費	16,000
	小計	16,000
<b>合計(補助)</b>		<b>459,600</b>

項目	工事名・業務名	事業費
工事 請負費	単 1 駅前広場整備工事	1,214,500
	単 2 電線共同溝工事	30,000
	単 3 宅地造成工事	113,000
	単 4 土壌汚染対策工事	18,000
	小計	1,375,500
負担金	単 5 上下水道工事費負担金	27,600
	小計	27,600
補償金	単 6 移転・損失補償	35,000
	小計	35,000
その他	施設修繕費	10,000
	事務費	12,300
	小計	22,300
<b>合計(単独)</b>		<b>1,460,400</b>

<b>合計(補助+単独)</b>		<b>1,920,000</b>
------------------	--	------------------



## 幸町地区優良建築物等整備事業（長崎スタジアムシティプロジェクト）

事業計画（※R5.8月時点の予定）

施行者	(株) ジャパネットホールディングス	
敷地面積	約 7.5ha	
総事業費	約 880 億円	
工事期間	令和 4 年度～令和 6 年度	
延べ床面積	約 190,000 ㎡	
主 な 用 途	スタジアム	約 20,000 席（6 階建て）
	アリーナ	約 6,000 席（6 階建て）
	ホテル	約 240 室（客室）（14 階建て）
	オフィス	約 13,000 ㎡（賃床）（12 階建て）
	商業	約 20,000 ㎡（賃床）（7 階建て）
	駐車場	約 1,150 台（立駐 900 台+平面 250 台）

位置図








※イメージは施工段階のため、今後デザイン含め変更の可能性があります。

(提供) ジャパネットホールディングス



# 令和5年度 東長崎縦貫線(2工区) 施行予定箇所

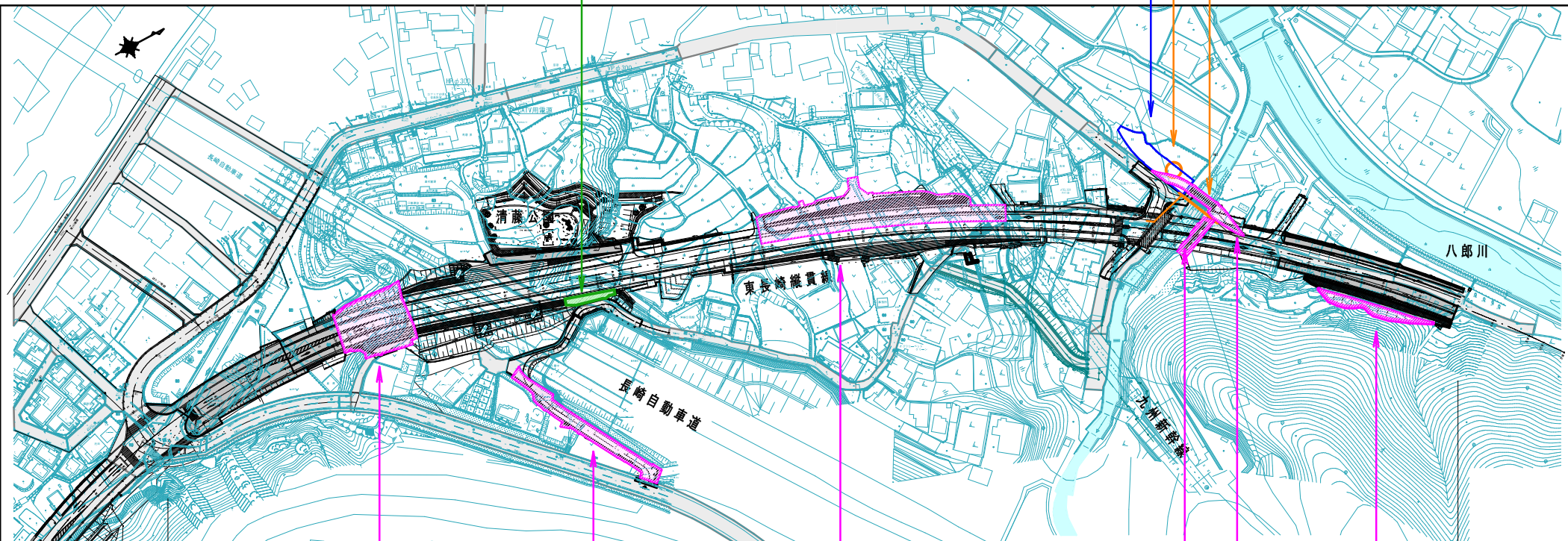
凡例	
測量費	
用地費	
補償費	
工事費	
事務費	

東長崎縦貫線(2工区)法面詳細設計業務委託  
【単独】

東長崎縦貫線(2工区)にかかる賃借料  
【単独】

東長崎縦貫線(2工区)営業休止補償  
【単独】

東長崎縦貫線(2工区)上水道管移設  
【補助】



東長崎縦貫線(2工区)橋梁下部工事  
【補助】

東長崎縦貫線(2工区)仮設橋工事  
【補助】・【単独】

東長崎縦貫線(2工区)道路改良工事  
【補助】・【単独】

東長崎縦貫線(2工区) 延長L=770m 幅員W=16.5m

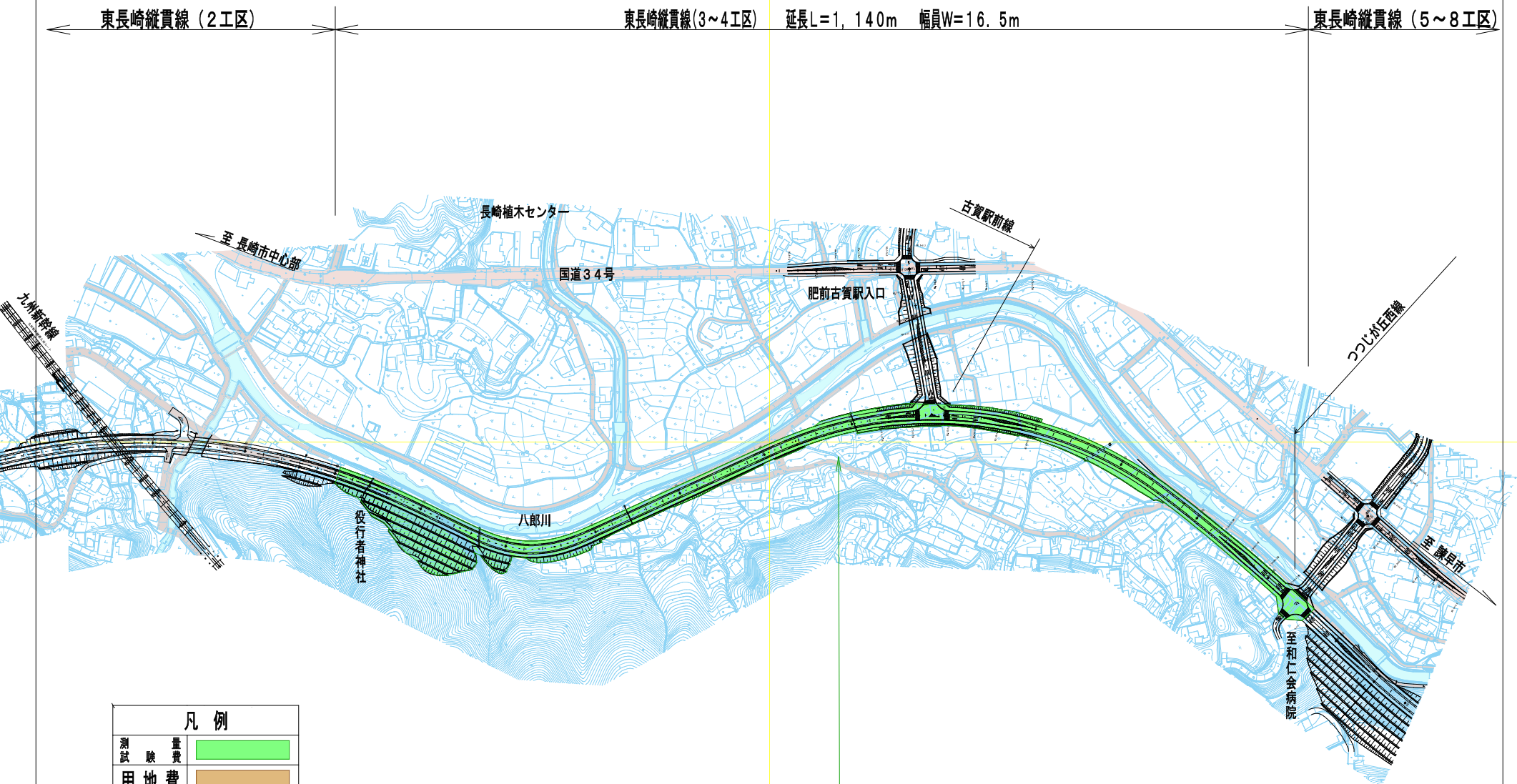


# 令和5年度 東長崎縦貫線（3～4工区） 施行予定箇所

東長崎縦貫線（2工区）

東長崎縦貫線（3～4工区） 延長L=1,140m 幅員W=16.5m

東長崎縦貫線（5～8工区）

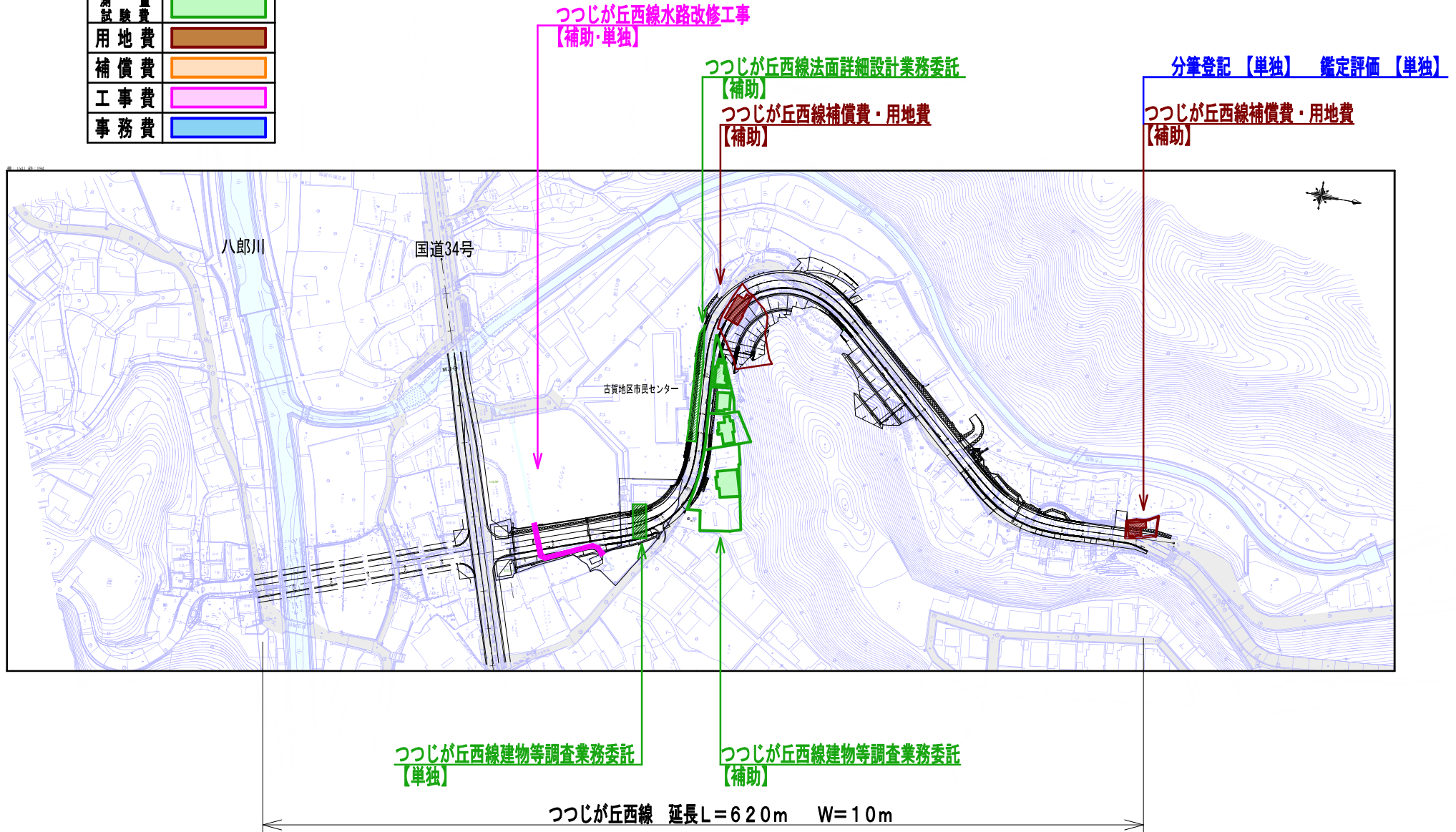


凡例	
測量費	<span style="background-color: #90EE90; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>
用地費	<span style="background-color: #D2B48C; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>
補償費	<span style="background-color: #FFDAB9; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>
工事費	<span style="background-color: #FFB6C1; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>
事務費	<span style="background-color: #9370DB; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>

東長崎縦貫線（3～4工区） 測量・詳細設計業務委託  
【補助】

# 令和5年度 つつじが丘西線 施行予定箇所

凡例	
測量費	<span style="background-color: #90EE90; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>
用地費	<span style="background-color: #8B4513; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>
補償費	<span style="background-color: #FFD700; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>
工事費	<span style="background-color: #FF00FF; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>
事務費	<span style="background-color: #0000FF; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>





# 令和5年度 古賀駅前線 施行予定箇所

古賀駅前線 延長L=460m 幅員W=12m

東長崎縦貫線


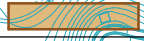



八郎川

肥前古賀駅入口交差点

国道34号

肥前古賀駅

古賀駅前線 測量・詳細設計業務委託  
【補助】

凡例	
測量費	
用地費	
補償費	
工事費	
事務費	



令和5年度 夜間景観整備事業 施行予定箇所

■南山手町1号線ほか1線  
街路灯改修 10箇所



整備イメージ



■南山手町4号線(どんどん坂)  
手摺照明設置105m



整備イメージ



■大浦町下町1号線  
手摺照明設置 32m



整備イメージ



凡例

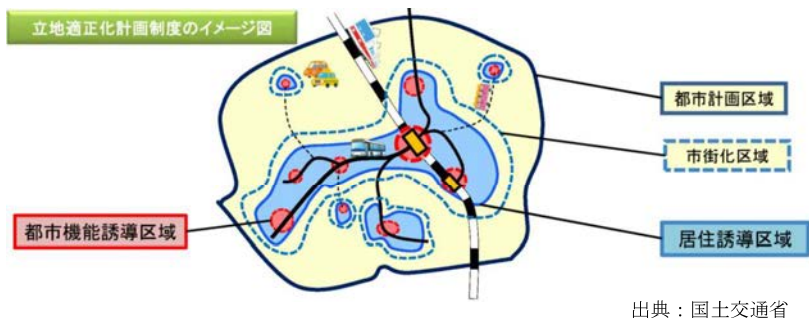
- デザイン灯へ改修(電柱共架)
- 手摺照明

## 2 長崎市立地適正化計画の改訂について

### (1) 長崎市立地適正化計画の概要について

#### ア 立地適正化計画とは

- 都市計画マスタープランにおける「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」のコンパクト化の実現に向けた計画
- 住宅や都市機能を増進する施設の立地について、基本的な方針を定め、都市機能誘導区域や居住誘導区域を定める
- 誘導区域に、都市機能や居住機能を誘導するための施策について検討し、他の関連計画等と連動しながら、誘導を図る。



#### イ 計画区域および目標年次

計画区域：長崎都市計画区域

目標年次：長崎市都市計画マスタープランに合わせる

平成30年度(2018年度)～令和17年度(2035年度)

#### ウ まちづくりの目標

##### 〈目標1:市民が安全・安心にずっと住み続けられる都市づくり〉

斜面市街地の地形的特性と策定から20年後の市街地のあり方を見据え、災害発生の危険性が低く、安全に安心して住み続けられる市街地を創出

##### 〈目標2:快適で暮らしやすい居住地を形成する都市づくり〉

快適で、利便性が高く、移動しやすい市街地の創出を進め、あわせて、歴史的価値のあるまちなみを世代を超えて引き継ぐ

#### エ 立地適正化計画に定める区域とその方向性

##### 都市機能誘導区域

「都市全体における各種サービス(医療・福祉・商業等)の効率的な提供拠点」として、高次なサービスを提供する都市機能が立地、集積する区域

##### 【区域の目指すイメージ】

- ◆特に高次なサービスを受けることができる
- ◆公共交通を利用しやすく、他所へ容易に移動できる
- ◆土地利用の効率化・集積が図られている
- ◆徒歩圏で多種のサービスを受けることができる

##### 居住誘導区域

人口減少下において、生活サービスやコミュニティが持続的に確保できるように、居住を誘導する安全で暮らしやすい区域

##### 【区域の目指すイメージ】

- ◆基本的なサービスを比較的容易に受けることができる
- ◆公共交通により高次なサービスを容易に受けることができる
- ◆徒歩移動が容易である
- ◆土砂災害等の発生のリスクが低い

##### 自然共生区域

人口減少下において生じる空き地を活用し、「防災性の向上」及び「自然との共生」を図りながら、眺望・通風・採光が良い斜面地の魅力を活かしたゆとりある居住を許容する区域

##### 【区域の目指すイメージ】

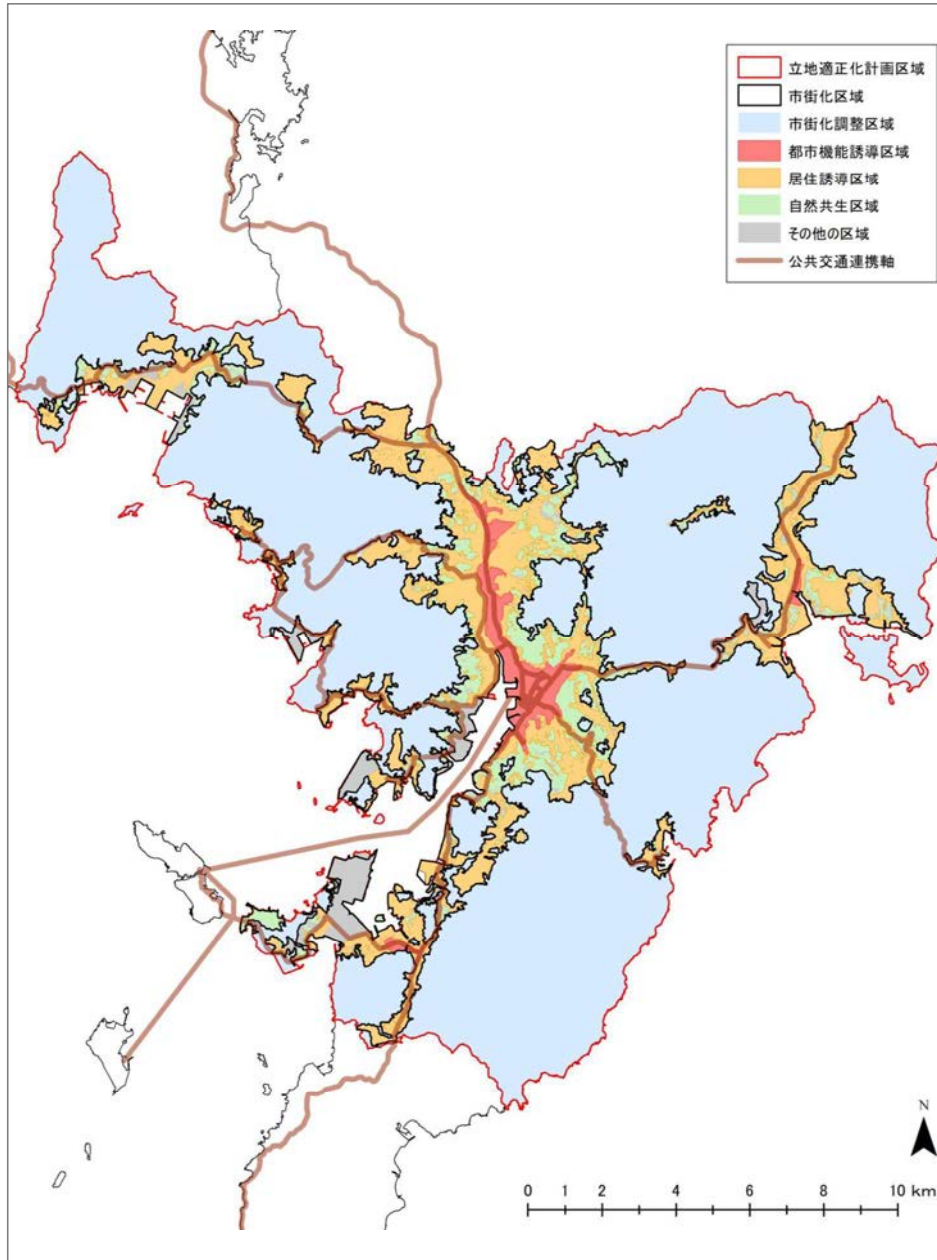
- ◆他区域と比較して、良好な眺望など、ゆとりある暮らしが可能
- ◆空き地で隣接地との空間を確保することで土砂災害の回避
- ◆老朽危険空き家の除却による住環境の改善





# (1) 長崎市立地適正化計画の概要について

## オ 立地適正化計画区域図



## カ 誘導施策及び目標値の設定

方針	対象	施策の方向性	主な事業
集約(コンパクト)	都市機能誘導区域	長崎市の魅力向上に資する都市機能の誘導	
		(ア)中心市街地活性化による都市の賑わいと活力の創出	◆長崎駅周辺再整備事業 ◆浜町地区市街地再開発事業 ◆まちなか再生推進事業 等
		(イ)快適で暮らしやすい市民生活の実現	◆中核となる子育て支援施設の設置 ◆長崎市公共施設等総合管理計画 等
	規制緩和による都市機能の誘導		
		(ア)都市機能を誘導しやすい環境づくり	◆都市計画の決定(変更) 等
	居住誘導区域	長崎市らしい安全・安心で快適な場所への居住誘導	
(ア)安全・安心で快適な空間の創出		◆道路新設改良事業・街路事業 ◆公園等施設整備事業 等	
(イ)安全・安心な場所への住み替えしやすい環境づくり		◆住宅セーフティネット制度 ◆空き家バンクの拡充 ◆長崎住みよ家・住宅性能向上リフォーム補助金 等	
連携	全域	市全体の暮らしやすさの確保に向けた地区間ネットワークの強化	
		(ア)地区間ネットワークの形成と公共交通維持	◆長崎市公共交通総合計画 ◆各施設計画等との連携
自然共 区域	自然共生区域	防災性の向上による、ゆとりある暮らしの維持	
		(ア)人口減少下で生じる空間の有効活用による防災性の向上	◆老朽危険空き家除却費補助金 ◆老朽危険空き家対策事業 等

### 目標値1:コンパクト(居住誘導区域内の人口密度)

	現況値(H28)	推計値(R17)	目標値(R17)
居住誘導区域内*	69.2 人/ha	56.4 人/ha	60 人/ha
市街化区域内(参考)	61.2 人/ha	49.8 人/ha	-

### 目標値2:ネットワーク(公共交通利便区域の人口カバー率)

	現況値(H28)	目標値(R17)
居住誘導区域内*	92 %	約 90 %
市街化区域内(参考)	89 %	-

※現況値(H28)、推計値(R17)については、現計画における居住誘導区域内の数値



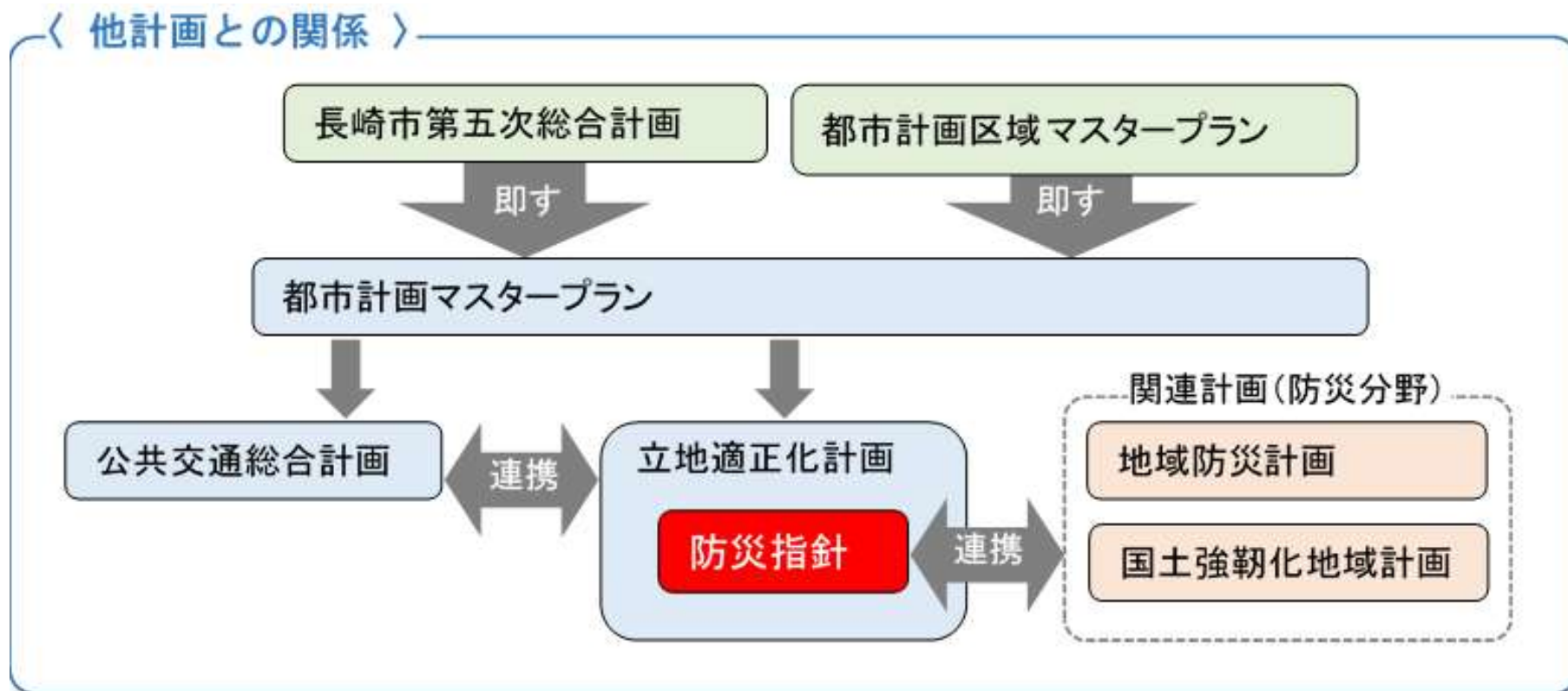
## (2) 立地適正化計画の改訂について

### ア 改訂の要旨

(ア)法に基づく定期見直し:計画期間「H30年度～R17年度」における5年毎に見直し

(イ)防災指針※の新規記載：令和2年の法改正により記載が強く推奨

※防災指針とは、都市機能や居住を誘導するうえで必要となる都市の防災機能を確保するための指針



## (2) 立地適正化計画の改訂について

### イ 立地適正化計画策定後の社会情勢の変化

- 計画の策定後、出島メッセ長崎や新大工町地区市街地再開発事業、新市庁舎建設が完了し、現在もJR新長崎駅ビルを含む長崎駅周辺再整備事業、長崎スタジアムシティの整備が進み、こうした大規模開発の動きに連動して、民間による住宅供給の動きも活発化するなど、都心部の開発は大きく進んでいる。
- 西九州新幹線の開業、国道34号日見バイパスや長崎自動車道長崎IC～長崎多良見IC間の4車線化などの交通基盤の整備も進んでいる。
- 一方、公共交通機関については、人口減少に加えコロナ禍、運転手不足という問題が重なり、特に路線バスにおいて減便、運行路線の効率化が余儀なくされている
- なお、防災・安全面については、中島川に加え、浦上川や八郎川の洪水ハザードマップが公表されるとともに、自主防災組織の結成、避難所の環境改善、防災情報の伝達手段の多様化が進んでいる。

## (2) 立地適正化計画の改訂について

### ウ 都市機能及び居住の誘導に向けた主な取組み

#### (ア) 都市機能

一部の分野(子育て、文化・交流、運動等)で今後も誘導の必要性があるものの、それ以外の分野では充足。特に、大規模店舗を含む複合商業施設の立地が大きく進む。

⇒主な取組み:出島メッセ長崎の整備(令和3年11月)

新大工町地区市街地再開発事業(商業)(令和4年11月)

JR長崎駅ビル(令和5年秋開業予定)

長崎スタジアムシティ(令和6年9月開業予定)

#### (イ) 居住機能

住宅供給に向けたハード・ソフト両面からの施策により一定の成果が得られている。

⇒主な取組み:用途地域全体見直し(容積率緩和等)(令和3年3月)

新大工町地区市街地再開発事業(居住)(令和4年11月)



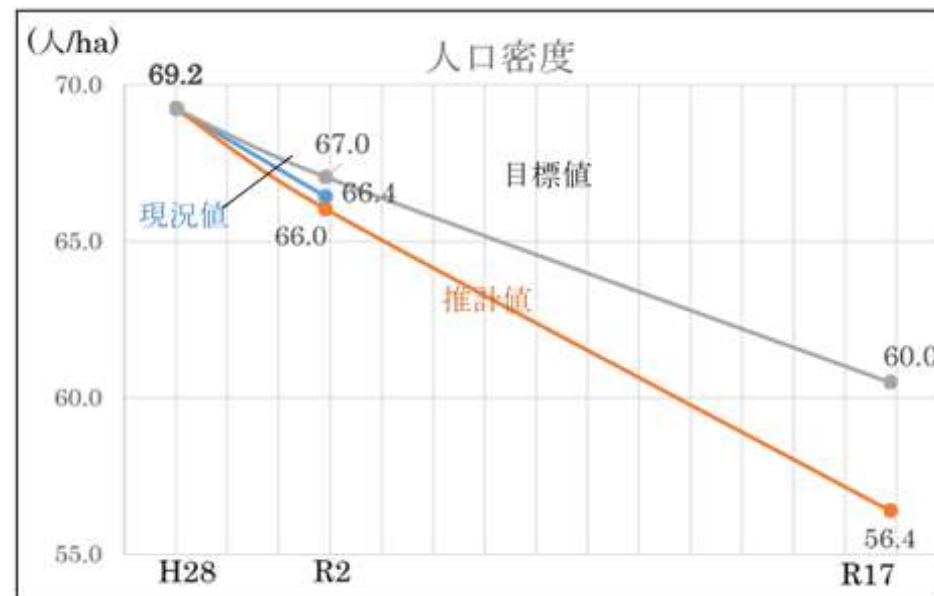
## (2) 立地適正化計画の改訂について

### Ⅰ 現行計画の効果・検証(指標の更新・結果)

(ア) 居住誘導区域内※の人口密度 ※現行計画における区域であり、今後変更の可能性あり。

人口密度	H28年度 (基準値)	R2年度	R17年度
目標値	69.2	67.0	60.0
R2(現況値)	69.2	66.4	—
H28推計値	69.2	66.0	56.4

R2時点の人口密度(66.4人/ha)は、  
目標値(67.0人/ha)より低いものの、  
推計値(66.0人/ha)より若干高い値で推移



(イ) 公共交通利便区域の人口カバー率

	H28年度 (基準値)	R2年度 (現況値)	R17年度 (目標値)
居住誘導区域内※	92%	92%	90%

R2時点のカバー率はH28年度(92%)の基準値を維持している。

## (2) 立地適正化計画の改訂について

### オ 改訂の方向性

(ア) **防災指針**を新規に記載

(イ) 都市機能誘導区域、居住誘導区域等について**時点修正**

(土砂災害特別警戒区域等の指定による区域修正など)

(ウ) 都市機能及び居住の誘導施策については、**現計画で未達の施策は継続**

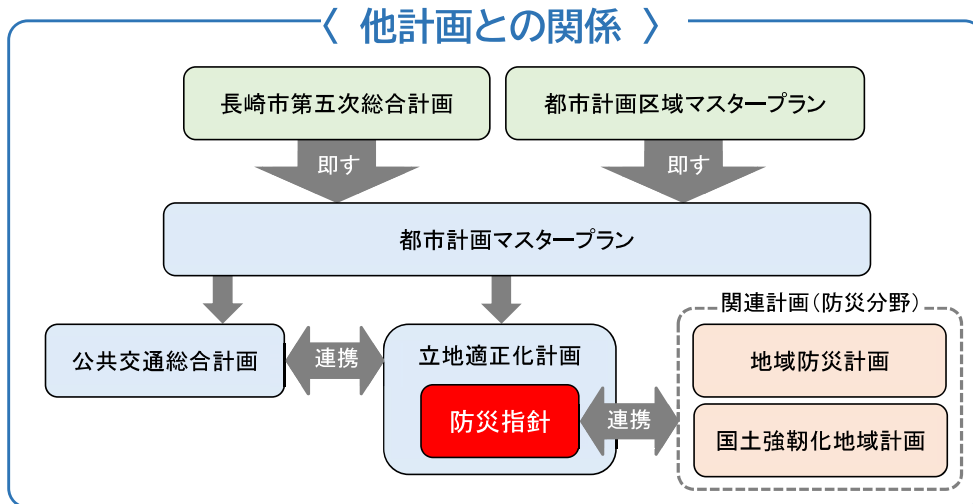
するとともに**新たな施策を追加**

区域	施策の方向性	追加する主な事業(案)
都市機能誘導区域	中心市街地活性化による都市の賑わいと活力の創出	平和公園再整備事業
		桜町近隣公園整備事業
		若者交流施設整備事業

### (3) 防災指針の概要

#### ア 防災指針の基本的な考え方

- ・都市機能誘導区域、居住誘導区域内にある災害リスクに計画的かつ着実に対処していくための防災・減災対策を記載



#### ウ 災害リスクの抽出

- ・災害ハザード情報と都市情報(人口、建物、都市情報、避難所、道路網等)を重ね合わせ災害リスクを抽出
- ・地震は、局地的な被災予測が困難であるため、都市情報の重ね合わせによる分析

#### イ 当計画で用いる災害ハザード情報

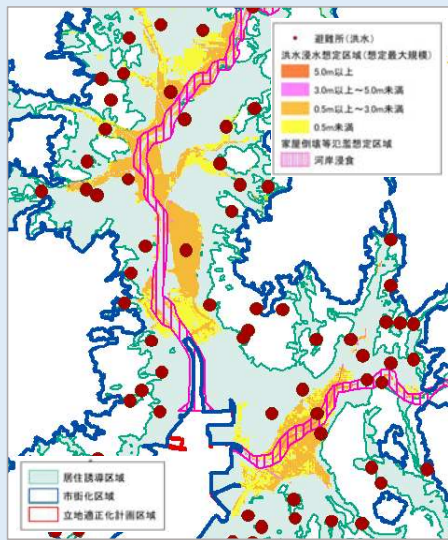
項目	災害ハザード情報
台風	発生頻度が高く、また、暴風等によって局所的な被害予測が困難であるため、全域的に起こりうる被害という視点から課題を整理
洪水	浸水想定区域－浸水深、浸水継続時間(想定最大規模)
	浸水想定区域－浸水深(計画規模) 家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食・氾濫流) ※想定最大規模で想定
津波	津波災害警戒区域 ※津波浸水想定区域に基づいて作成
ため池	浸水想定区域－浸水深
土砂災害	土砂災害警戒区域(イエローゾーン)
	土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)
	砂防指定区域
	地すべり防止区域 急傾斜地崩壊危険区域
地震	地震は局所的な被害予測が困難であるため、全域的に起こりうる被害という視点から課題を整理

ハザード情報	課題抽出の観点
洪水 (L1・L2)	垂直避難で対応できるか、避難所が活用できるか、浸水による施設機能の停止はないか、家屋倒壊の危険はないか、要配慮者等の生命維持に危険はないか
津波	垂直避難で対応できるか、避難所が活用できるか、要配慮者等の生命維持に危険はないか
土砂災害	要配慮者等の生命維持に危険はないか
地震	家屋倒壊による生命維持の危険、甚大な財産被害はないか、道路途絶による避難活動・救急活動・災害復旧の遅れはないか、火災による延焼はないか

### (3) 防災指針の概要

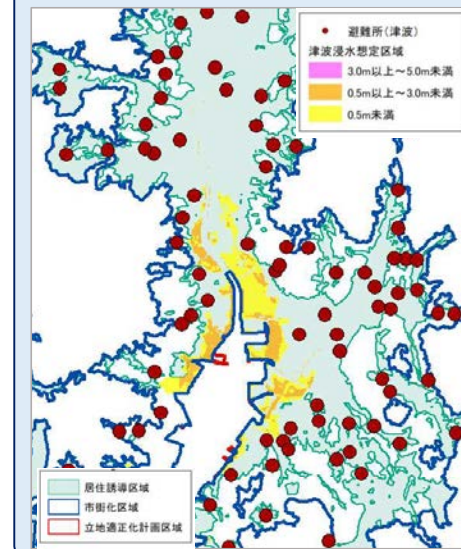
#### (ア) 台風

- 強風による屋根瓦等の飛散、倒木が発生する恐れがあり、周辺家屋への被害拡大や避難経路の寸断が懸念される
- 停電や断水が発生する恐れがある
- 高潮による港湾施設や建物への被害(浸水等)が懸念される



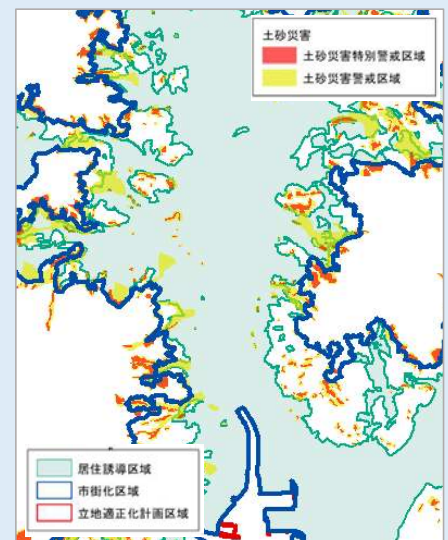
#### (イ) 洪水・雨水出水

- 浦上川、中島川、八郎川沿いを中心に想定最大規模で浸水し、床上浸水や道路冠水等で避難が困難になる恐れがある
- 浦上川と中島川沿いでは河岸浸食による家屋倒壊等の被害拡大が懸念
- 大雨により下水道管や水路の排水が追いつかず、水が溢れる恐れがある。



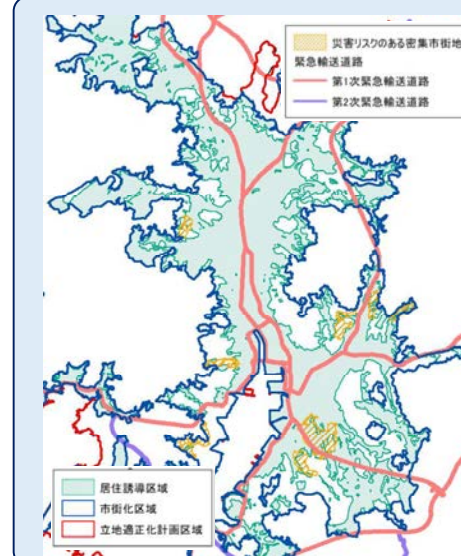
#### (ウ) 津波

- 中央、南部、東部地域における沿岸部の一部が浸水想定区域に指定されており、建物の床上浸水や道路冠水等により、避難活動が困難になる恐れがある



#### (エ) 土砂災害

- 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)及び特別警戒区域(レッドゾーン)が市内全域に分布
- 特に土砂災害警戒区域内に、要配慮者施設を含め建物が多数立地しているため、家屋倒壊等による人的・物的被害の拡大が懸念



#### (オ) 地震

- 旧耐震基準の木造建物が市街化区域内に多数立地し、延焼による被害拡大、建物倒壊による緊急物資輸送の機能不全等が発生する恐れがある
- 市中心部では、延焼危険性や避難困難性が特に高く、地震時等において安全性を確保することが困難である著しく危険な密集市街地が設定されている



### (3) 防災指針の概要

#### エ 防災まちづくりの取組方針

##### (ア) 台風への対応

- 台風接近時には、避難行動自体が困難になるため、避難場所の確保ならびに迅速な避難行動が重要
- 住民の早期避難体制の構築や指定避難所における一定期間の受入体制確保等に努める
- 海岸の背後地における被害を防止するための対策を推進

リスクの低減(ハード)  
インフラ等整備

リスクの低減(ソフト)  
避難・防災体制の充実、  
意識啓発、情報発信

##### (エ) 土砂災害への対応

- 土砂災害特別警戒区域については、居住誘導区域から除外。
- 土砂災害警戒区域については、リスクの低減策を講じることを前提に、一部を居住誘導区域に含む
- 災害リスクの周知・啓発を強化し、地域防災力の向上を図る
- 公園、道路等を避難時に活用するとともに、県との連携を図りながら急傾斜地崩壊防止施設等の整備を推進

リスクの回避(ソフト)  
危険回避

リスクの低減(ハード)  
インフラ等整備

リスクの低減(ソフト)  
避難・防災体制充実、  
意識啓発、情報発信

##### (イ) 洪水・雨水出水への対応

- 浸水想定区域においては、災害時の生命維持に対するリスクの低減策を講じることを前提に、一部を居住誘導区域等を含む
- 住民の早期避難を取組の軸に、ハード・ソフトの両面から総合的に対策
- 大雨による浸水被害を最小限にとどめるために、雨水排水の整備を推進

リスクの回避(ハード)  
危険回避

リスクの低減(ハード)  
インフラ等整備

リスクの低減(ソフト)  
避難・防災体制の充実、  
意識啓発、情報発信

##### (オ) 地震への対応

- 地震災害は、局地的な被害想定が困難であることから、木造住宅や公共施設等の耐震化を促進し、倒壊による人的・物的被害の軽減を図る。
- 避難・防災体制の充実を図るとともに、防火帯・防災活動拠点となる公園等の整備を推進

リスクの低減(ハード)  
インフラ等整備

リスクの低減(ソフト)  
避難・防災体制充実、  
意識啓発、情報発信

##### (ウ) 津波への対応

- リスクの低減策を講じることを前提に、一部を居住誘導区域に含む。
- 津波発生時には、円滑かつ迅速な避難行動が求められることから、早期避難体制の構築に努める

リスクの低減(ソフト)  
避難・防災体制の充実、  
意識啓発、情報発信

### (3) 防災指針の概要

#### オ 具体的な取組一覧

方向性	種別	取組	実施主体	災害(主なもの)				目標			
				台風	洪水・雨水出水	津波	土砂災害	地震	(5年程度) 短期	(10年程度) 中期	(20年程度) 長期
避難・防災体制の充実	低減	避難行動要支援者の名簿作成及び提供	市	●	●	●	●	●			
	低減	自主防災組織の結成・活動の活性化	市、自治会、地域コミュニティ連絡協議会	●	●	●	●	●			
	低減	自助・共助・公助が一体となった避難所運営の推進	市、自治会	●	●	●	●	●			
	低減	情報伝達手段の拡充	市	●	●	●	●	●			
啓発意識	低減	地域防災マップの作成推進	市、自治会	●	●	●	●	●			
	低減	地域の防火防災訓練の実施	市、自治会	●	●	●	●	●			
情報発信	低減	ため池ハザードマップの作成・公表	市	●	●		●	●			
	低減	洪水ハザードマップの作成・公表	市		●						
	低減	土砂災害ハザードマップの作成・公表	市				●				
	低減	各種防災情報の入手方法の発信	市	●	●	●	●	●			
インフラ等整備	低減	道路整備事業(緊急輸送道路を含む)	市、県	●	●	●	●	●			
	低減	住宅市街地基盤整備事業	市				●				
	低減	無電柱化事業	市	●				●			
	低減	急傾斜地崩壊対策事業	県				●				
	低減	砂防事業	県				●				
	低減	公園等施設整備事業	市				●	●			
	低減	河川改修事業	市、県		●						
	低減	都市防災総合推進事業(盛土等による災害防止)	市				●				
	低減	宅地のがけ災害対策事業	土地所有者				●				
	低減	長崎市安全・安心住まいづくり支援事業(木造戸建住宅の耐震補助事業)	市					●			
	低減	長崎県耐震・安心住まいづくり支援事業	県					●			
	低減	橋梁耐震化事業	県					●			
	低減	民間建築物耐震化推進事業	市					●			
	低減	雨水整備事業(降雨による内水排除に限る)	市		●						
低減	護岸改良事業	県、市	●								
低減	老朽危険空き家対策事業	市				●	●				
危険回避	回避	災害時に機能を確保すべき公共施設の土地の高上げ	市		●						
	回避	土地利用規制	市		●		●				
	回避	宅地造成及び特定盛土等規制法に基づく盛土等の規制	市				●				
	回避	土砂災害特別警戒区域等から居住誘導区域への移転に対する施策	県				●				

#### カ 目標値の設定(防災指針)

目標値は上位計画である長崎市第五次総合計画の目標値と連携しており、当該計画の更新に併せて見直す

目標1:自主防災組織結成促進		
評価指標	基準値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)
自主防災組織活動カバー率※	69.3%	76.8%

※自主防災組織が活動範囲としている地域の世帯数/総世帯数

目標2:防災情報の発信		
評価指標	基準値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)
防災メール・防災アプリの登録者数	92,000人	142,000人

目標3:建築物の耐震化対策		
評価指標	基準値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)
住宅の耐震化(耐震化率)	83.3%	90.0%

# (4) 今後のスケジュール

	令和4年度				令和5年度						
	4	7	10	1	4	7	10	1			
立地適正化計画改訂		業務委託 契約 ●	分析評価等 ●	●	全体計画作成作業 防災指針作成作業		●	説明会 パブコメ ●	●	都計審 ●	公表 ○





### (3) 整備構想

#### 将来像

海の国際玄関口 ～歴史がつなぐ・人が生み出す・まちが魅せる新ナガサキ～

#### 整備コンセプト・土地利用の方針

##### A. 国際ゲートウェイ機能の強化

- ・クルーズ船2隻の同時寄港可能な国際ターミナル機能の整備（出入国審査、税関・検疫検査）
- ・ツアーバス駐車場、タクシー・シャトルバスの乗降施設機能の整備

##### 【施設イメージ例】

新国際ターミナル（C I Q、待合所、イベントスペース、などを含む）、  
利便施設（休憩所等）、  
ボーディングブリッジ、  
緑地など

##### B. 交通結節機能の強化

- ・クルーズ船と陸上交通の接続
- ・各種交通と連携した利便性の高い交通結節機能の整備
- ・路面電車の整備（中長期的検討）

##### 【施設イメージ例】

幹線道路と繋ぐ道路整備、  
ツアーバス・シャトルバス・路線バス乗降場、  
タクシー乗降場・プール、  
一般駐車場、路面電車（中長期的検討）など

##### C. 観光・交流機能の強化

- ・港と南山手地区との繋がりをと感じさせるエントランス機能の整備
- ・民間活力を導入した洋館等活用を推進し、非日常で特別な空間を創出
- ・情報発信機能の整備

##### 【施設イメージ例】

観光案内所、飲食店（地元の水産物提供）、  
特別感のある宿泊施設・物販店、  
観光集客施設など

##### D. 都市機能の強化

- ・利便性の高い公共交通ネットワーク強化
- ・生活利便施設の立地誘導
- ・洋館活用推進による来訪者と市民の交流強化

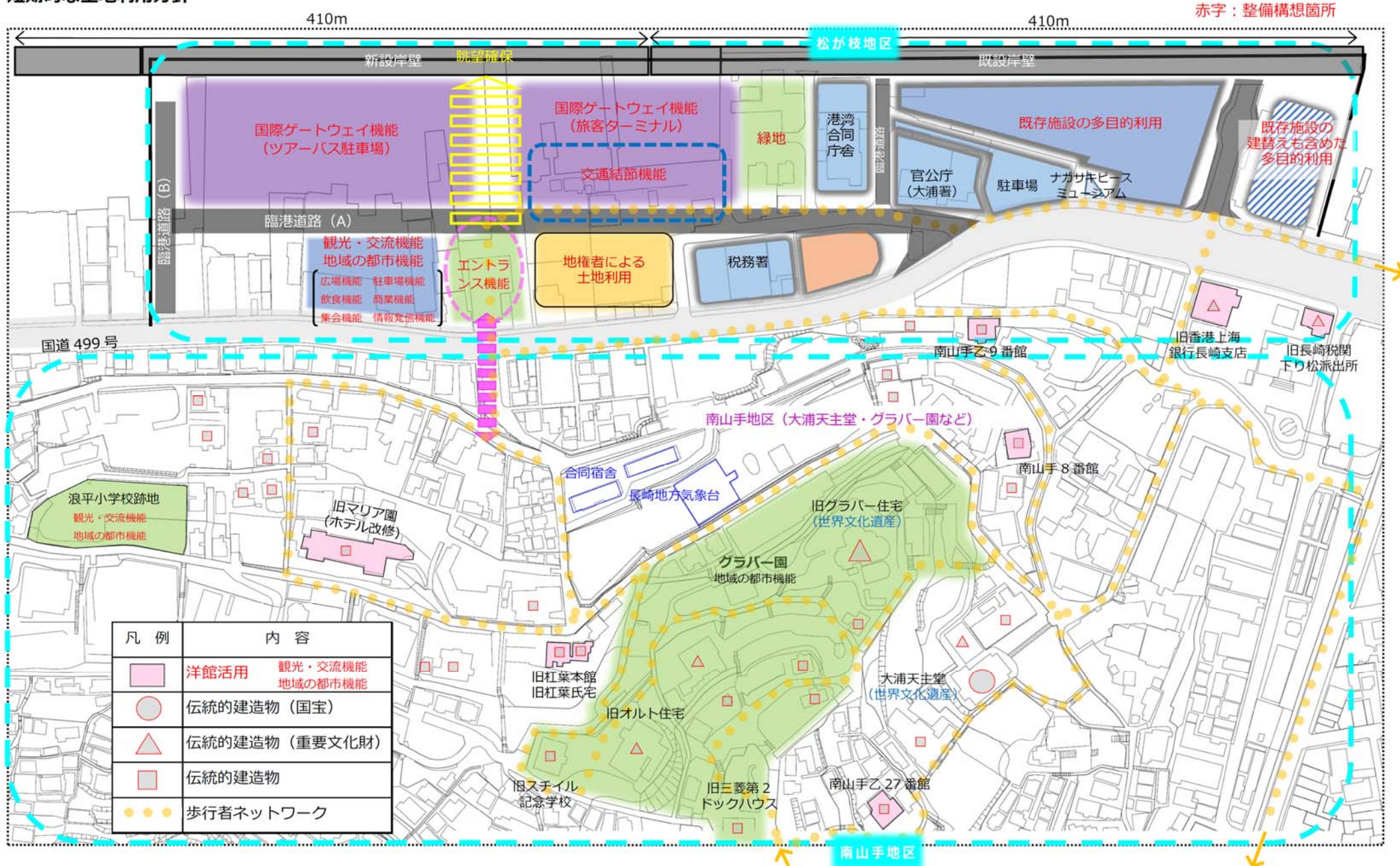
##### 【施設イメージ例】

生活利便施設、南山手地区への回遊動線強化、  
地域の公共広場、路線バス乗降場、  
コワーキングスペース、  
学習スペース、など



# (4) 土地利用計画のイメージ

## 短期的な土地利用方針



## (5) 今後の進め方

区分	施設名	主体	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15以降
港湾施設	岸壁・泊地	国	青	オレンジ									
	ふ頭用地	県	青	オレンジ									
	臨港道路 (岸壁接続)	県	青	オレンジ									
	臨港道路 (ターミナル接続)	県	青	オレンジ									
	新ターミナル	県 PPPの活用を想定	青	オレンジ									
	駐車場		青	オレンジ									
	緑地		青	オレンジ									
	第1ターミナル 活用		青	オレンジ									
	第2ターミナル 活用		青	オレンジ									
事業隣接地	エントランス ・広場	市	青	オレンジ									
	上記以外の 土地利用	県民間	青	オレンジ	オレンジ	オレンジ	オレンジ	オレンジ	オレンジ	オレンジ	オレンジ	オレンジ	オレンジ
南山手 地区	洋館等活用	市民間	青	緑						緑	緑	緑	緑
	浪平小学校跡地活用		青	緑									
	その他の長崎居留地 歴まちグランドデザイン に基づく取組		青	緑							緑	緑	緑

青：調査・設計・調整・  
法令等手続き  
オレンジ：施設整備  
緑：歴史的風致の維持  
向上を図る取り組み  
点線：中長期的検討



## (6) 公表までのスケジュール

令和5年5月

整備構想（案）の作成

令和5年5月～8月

整備構想（案）作成に向けた意見調整  
・ 地権者関係                      ・ 地元自治会等  
・ 商工会議所等関係機関  
・ 長崎港松が枝国際観光埠頭整備促進期成会

令和5年8月

長崎居留地シンポジウムでの説明

令和5年9月

整備構想案の 県・市 議会への説明

令和5年10月（予定）

整備構想策定（公表）